

教育研究の広場琉球大学21世紀COEプログラム特別講演会
「琉球列島の生物多様性と私」

11月22日、鮎をはじめさまざまな動物の生態に関する研究で著名な川那部浩哉琵琶湖博物館館長（京都大学名誉教授）による講演会が本学理学部理系複合棟102教室で開催された。川那部先生は、1968年には琉球大学で動物生態学の集中講義をされ、また1973年には文部省の流動研究員として1年沖縄に滞在され、本学の研究者と河川生物に関する共同研究を進めるなど、沖縄とは極めて縁の深い方で、講演の端々に沖縄に対する熱い想いが感じられた。

沖縄の鮎の生態は京都で観察されるものとはなわばりの持ち方、他種との関係が異なること、タンガニーカ湖における魚類の種間関係の研究では通常生物学の法則では説明出来ない現象が見つまっていること、などの事例を紹介しながら、生物多様性の研究については「関係の多様性」を十分に解きほぐすことが重要であることを話された。

引き続き行われたCOE関係者との懇談会では、特に若手同士の議論の場を用意しつつ若手研究者を育成し、全体のまとまりを重視しながら革新性を打ち出すようにとアドバイスを与えていた。



▲講演をする川那部琵琶湖博物館館長

[学報トップ](#)